

■(慈昭院)足利義政 武將。室町幕府8代將軍。政治力を欠いて<応仁の乱>を引き起こすも、東山文化を花咲かせた。

あしかがよしまさ
.....1436=

6代將軍義教と日野重子の次男に生まれ、日野資任の烏丸邸で、その後見のもとに養育される。

永享の乱始・1438= 2歳：

嘉吉の乱・・1441= 5歳：いわゆる嘉吉の乱で義教が横死し、兄義勝が7代將軍となるも、

対馬嘉吉条約1443= 7歳：夭折したため、細川・畠山ら有力守護大名の合議を経て、**家督を継ぐ。**

.....1445= **9歳**：

.....1446=10歳：後花園天皇から義成と命名される。
蹴鞠が巧く、優雅で光源氏の再来とまで評され、

足利義政將軍1449=13歳：元服、**征夷大將軍**となる。

大和土一揆・1451=15歳：母重子が突然室町邸から出て、姿をくらます。

.....1453=17歳：**当初は管領細川勝元による施政であったが、次第に政治に関心を持ち、確執が昂じて勝元が突然辞職。義政と改名して、直接御判御教書を発給するなど、自立の気配を見せるも、**
享徳の乱始・1454=**18歳**：この年、伊勢貞国が死去し、家督を相続した貞親が近侍、管領をも超える隠然たる影響力を発揮し始め、
古河公方始・1455=19歳：**日野重政の娘富子を正妻に迎えた後、**

もともと政治力に欠けていたことから、
道灌江戸城始1457=21歳：伊勢貞親主導による守護大名抑制政策が行われ、その過程で畠山・斯波家内の相続争いが利用され、
寛正大飢饉始1459=22歳：女子を得るが死産であった。このことに関し、義政の愛妾とも乳母ともいわれる今参局が富子を呪詛したことが露頭、富子に唆されて、今参局を配流して自刃させる事件が起き、この年から天候異変が続き、

.....1460=24歳：左大臣。
蓮如御文始・1461=25歳：<寛正の大飢饉>となる間、**政治を疎んじて酒色に溺れ、後花園天皇から諫めの詩を贈られるなどするとともに、繊細な文化へと傾斜して行く。**

寛正大飢饉終1462=26歳：この年、幕府の命で、小栗宗湛が高倉御所の襖絵を描き、
.....1463=**27歳**：宗湛が御用絵師となる。
.....1464=28歳：准三宮となる。富子とともに、京都の糺河原で音阿弥主催の勸進猿楽を見物。義政は僧籍にあった弟義尋を還俗させて義視と改名、継嗣に定めたが、

.....1465=29歳：この頃、父義教の追善のため「融通念仏縁起絵巻」を制作させる。室日野富子に実子義尚が生まれて継嗣争いが始まる。近江の武士熊谷在直に奢侈を諫められ怒って追放。隠居的生活を志して東山山荘の土地選定。

.....1466=30歳：頼みの伊勢貞親が大名らの反発により失脚すると、**政治收拾は困難となり、**
応仁の乱始・1467=31歳：**応仁の乱に突入。継嗣争いと幕閣における細川勝元と山名持豊(宗全)の対立でついに大乱に突入、京都は焼野原となり、以後も市中で断続的な争いが続く。**

.....1472=**36歳**：
足利義政隠居1473=37歳：**子義尚に將軍職を譲って隠退、実権は持ち続け、**
加賀一揆始・1474=38歳：富子・義尚を花御所に残して、新築の小川御所に移住したが、

.....1476=40歳：花御所が類焼したため、富子・義尚も小川御所に避難し、
応仁の乱終・1477=41歳：母子は新築なった小川御所新邸に入る。京都での戦乱は一応収まったが、以後、戦乱はしだいに地方に広がり戦国時代となって行く。

兼良+一休没 1481=**45歳**：***守護大名らが自らの言うことを全く聞かず、妻富子・子義尚とも不和となり、閉居して参賀の客に一切会おうとせず、聖護院山荘に隠れる。**

義政政権放棄1482=46歳：ついに実権も義尚に委譲、守護大名・寺社などからの納付金を財源に、**京都東山山荘の造営を始め、**
狩野正信絵師1483=47歳：雪舟に推挙された狩野正信が「瀟湘八景図」を描き、以後御用絵師となる。**移住して“東山殿”と称され、**
山城国一揆・1485=49歳：完成した西指庵に入り、翁周鏡を戒師として得度、本懐を遂げる。
この間、費用を調達すべく負担金を増大させ、守護大名・寺社の領民に転化されて、一揆の種となる。

.....1487=51歳：東山山荘の会所ができ、
加賀一揆支配1488=52歳：
銀閣寺完成・1489=53歳：***山荘内に観音殿(銀閣)を建てるなど、造営事業に没頭し、同年近江に六角氏征伐のため出陣していた子義尚に先立たれ、再び政務をみることとなったが、中風となり、**

足利義政没・1490=54歳：**後を追うように没した。**